

全県選出理事 候補者（定数：11名）

立候補者 氏名（所属機関）	立候補理由	推薦者 氏名（所属機関）	推薦理由
伊東 安奈 (福智クリニック)	私はこれまで精神科診療所（および司法人が運営する障害福祉サービス事業所）でずっと勤務してきましたが、ここ数年精神保健福祉士の活動の場が多岐にわたるようになったことを実感しています。その中で現在、愛知県精神保健福祉士協会の理事会では、今後の組織体制をどうしていくかという議論を重ねているところです。多分野にわたる協会員が納得のできる協会の活動はどのようなか、運営をしやすくするにはどうしたらいいのか、職能団体としてはどうあるべきなのか、日々考えさせられます。微力ではありますが、よりよい協会ができるように力を尽くせたらと考えておりますので、引き続き候補させていただきま	藤村 英希 (メンタルヘルスサポートセンター)	伊東さんは、所属する医療法人福智会では幹部として法人運営の中核を担っており、冷静な判断力と問題解決能力があり、上司や部下、患者さんやご家族からも信頼が厚く、尊敬されています。業務に関する事から個人的なこともまで多くの相談が寄せられていますが、その一つ一つにも真摯に対応して下さり、他者のために力を尽くしてくださる方です。愛知県精神保健福祉士協会では現在理事を務めており、愛知県の精神保健福祉分野の発展と精神保健福祉士の専門性の向上、協会活動の運営等に尽力して下さっています。どんな場所でも活躍する力、考えを行動に移す力、協会員を支えたいと努力を続けられておられ、引き続き理事としてその力を協会のために尽くして頂きたいと、推薦させていただきます。
小川 隆司 (中村メンタルクリニック)	長らく理事をさせて頂いています。この2年間は事務局長をさせて頂きました。皆様のおかげでこれまでにもブロック理事としても様々な経験をいたしました。取り組むごとに今後の協会としても、自分自身としても課題が見えてきます。一般社団法人として内外に向けてその役割を果たさなくてはなりません。協会が今後どのような方向に進んでいくのに関わらせていただけることは、とても幸せなことだと思います。それゆえに誠実に取り組むことが重要とも考えます。所属は尾張西ブロックですが、ブロックについては次の方にご活躍をして頂きながら、私は今回全県理事に立候補させて頂き協会の発展に貢献したいと考えています。	緒方 圭子 (犬山病院)	被推薦者は愛知県西部地域において、相談援助職として精神科病院に8年、精神科クリニックに19年従事しており、非常に精神科医療に精通しています。また相談センターの立ち上げに専任し、当事者の声や関係者、従事者、ご家族との交流、地域における福祉啓発にも力を注いでいました。精神保健福祉士養成校の非常勤講師として後進の育成に力を入れ、協会活動においては平成11年から令和元年までブロック理事を、平成28からは公益社団法人日本精神保健福祉士協会代表理事を務めました。被推薦者の実績は当該協会全県理事として推薦するに足るものと考えます。今後の当該協会の社会的役割を理解し、引継する適切な人材である小川隆司さんを全県理事としてここに推薦いたします。
片岡 博智 (みどりの風南知多病院)	令和2年より当協会の理事を務めさせて頂いております。ピアサポーター委員会委員長、初任研修委員会副委員長など、今後も引き続き活動を続けていきたいと思っております。よろしくお願ひします。	徳山 勝 (守山区障害者基幹相談支援センター)	みどりの風南知多病院にて長年精神科ソーシャルワーカーとして、精神障害者やそのご家族の生活支援に尽力されております。その取り組みの一つとして、個別のケース支援以外にも、地域の自立支援協議会に常任委員として参加して、医療・保健・福祉の連携や、その地域の支援体制の構築を行って頂いております。また、知多地域広域精神保健福祉部会では、入院中の患者さんにもわかりやすく情報提供ができるリーフレットの作成にも取り組まれています。愛知県精神保健福祉士協会では、愛知県から委託しているピアサポーター事業の担当リーダーとして、積極的ピアサポーターの活動を創設したり、事業運営をされています。片岡博智さんの普段の実践は、愛知県精神保健福祉士協会の定款目的である「(前略) 精神障害者の社会的復権」につながる取り組みであり、協会理事を担って頂くことで、目的の実現に貢献していくと思っております。これらの理由から推薦致します。
河合 功樹 (さくらぎ眼科こころのクリニック)	わたしはこれまで、精神科病院に9年間、市役所福祉課に4年間在職した経験があり、そして今年度からは開設したばかりの精神科クリニックにて勤務しております。所属は変わっても当事者の方にならなくても、なにをすべきのかわり、葛藤しながら支援を行うことにも変わりなく、今後も研鑽を積み上げたいと考えております。日頃の実践を活かし、協会の発展および地域福祉の向上のために尽力できればと考え、立候補いたしました。	松井 伸夫 (豊川市障害者相談支援センター)	河合功樹さんは、精神科病院、行政の障害福祉担当、メンタルクリニックにおいて、マクロ、メソ、マクロのソーシャルワーク実践を重ねていらっしゃいます。その豊富な実践を活かし、河合さんの実行力と熱意で、愛知県精神保健福祉士協会の理事として、協会の更なる発展と精神保健福祉士の人材育成等に同様に活躍をしていただけることを期待して推薦いたします。
櫻井 早苗 (愛知県精神医療センター)	私は今日まで、精神保健福祉士として、精神科病院を中心に活動してまいりました。働き始めたころは、精神保健福祉士が資格化されておらず、諸先輩方が精神障害者の社会的復権のために一つ一つの実践を丁寧に行われていたのが、ソーシャルワークについて深く学ばせていただくことができました。今では、精神保健福祉士が資格化され、社会的にも認知され、活躍の場が広がっております。マクロの視点の重要性が言及されている昨今、改めて精神保健福祉士の役割について考える必要があります。我々、精神保健福祉士は、精神に障害のある方やご家族の立場から立ち、実践ができていけるでしょうか。また、職能団体としての存在に貢献できるでしょうか。協会を通じて、皆様と精神保健福祉士について考え、その役割を各方面に発信していきたいと考えております。以上のことから、再度、理事に立候補させていただきます。	太田 晋吾 (東春病院)	私はソーシャルワーカーデイ企画委員会において、櫻井氏とともに活動しました。今年度は櫻井氏が事務局をとりまとめ、企画運営の中核を担いました。各団体の連携調整においてリーダーシップを発揮されました。その他、若手委員としても、その力が発揮できるような業務分担を行い、育成にも努めていらっしゃいます。当事者が無事に終えられ、健康な生活を送るための取組が、この大いなる喜びです。その思いが、協会活動でも、櫻井氏持ち前の柔軟性、協同性、調整力、行動力を活かして発揮されています。また日々の実践においても、精神保健福祉士のあり方を常に考えて取り組まれています。そうした櫻井氏の存在は、愛知県精神保健福祉士協会に欠かすことができません。以上のことから、櫻井早苗氏を推薦いたします。
砂田 雄次 (北メンタル・クリニック)	これまで本協会の活動を通してたくさん良い出会いと研鑽の機会を得てきました。いずれも、日常の業務にプラスして大変貴重な経験となっています。それらの経験を振り返ると、本協会の活動を継続・発展させ後進に引き継いでいくことが自らの責務と考え、理事に立候補することをいたしました。よろしくお願い致します。	榎本 薫 (守山区障害者基幹相談支援センター サテライト)	砂田氏は精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業の審議アドバイザーとして活動しており、業務上の助言・指導を担当して下さっています。研修等にも積極的に参加して学びたい意気込みが多くの気づきを生かされています。協会活動でも、理事として中心的な役割を担われており、特に「あたなになへ」では委員を務めながら後進の育成にも力を注いでいます。リーダーシップのある砂田氏の存在は、愛知県精神保健福祉士協会に欠かすことができないと思います。以上のことから、砂田雄次氏を推薦いたします。
辻川 幸博 (京ヶ峰岡田病院)	2007年度から理事を担わせていただき、事務局長、事務局長、副会長と歴任させていただきました。そして多くの課題がある事を知り、その課題に向けて引き続き取り組んでまいりたいと思っております。この協会の発展と後進の育成を目標とし、また、新しい風も取り入れて、今後も協会運営に携わっていきいたいと思ひ立候補しました。	森井 曜子 (稲垣病院藤田こころケアセンター)	精神保健福祉士としての知識と経験、協会活動におけるこれまでの実績、誠実な人柄から辻川幸博氏を愛知県精神保健福祉士協会の理事に推薦いたします。
中川 学 (蒲郡市障がい者支援センター)	現在愛知県精神保健福祉士協会副会長として研修部を担当、多くの研修や事業の企画や運営にかかわらせていただいております。担当理事や担当委員など一緒に考え、磨き上げていく中で多くのことを経験させて頂いております。また協会活動を通して多くのことを学び、多くの先輩や仲間と出会うことが出来ました。この素敵な経験を私だけのものにせず、会員の皆様にお返ししたいと思います。この素敵なつながりをさらに広げたいと思ひます。会員の皆様が事業の仲間となつていけるきっかけとなるような協会活動を行っていきたくと考えています。	眞名 佳樹 (京ヶ峰岡田病院)	普段の業務では相談支援事業所にて対象者へ関わる姿勢を学ばせていただき、岡田の相談支援事業所・相談機関等の関係機関をしっかりと巻きながら支援を展開されてみえ、対象者のみでなく第三者関係でも欠かす存在になってきています。加えて、当該協会活動にも協力され、これまで活躍された経験やそれらに繋がるは、これらの協会にとって大変貴重なものとなること間違いありません。上記より、今回全県理事としてご活躍頂きたいと考え、推薦させていただきます。
中住 正紀 (生活支援センターさざなみ)	平成12年から当協会執行部としてかわらせていただき、当協会法人化を取得した年には事務局長を、令和2年からは会長として運営に携わりました。会員の皆さまが、この協会に深い帰属意識を持っていただけるような執行を目指して、微力ながら尽力したいと考えています。	杉本 直 (生活支援センターさざなみ)	愛知県精神保健福祉士協会の時期理事及び会長に、中住正紀さんを推薦します。中住さんは第三回ブロックで、40年近くの間役員となり、現在、特定非営利活動法人さざなみで相談支援業務を担当していただいております。日常業務では、利用者の話に耳を傾け、その傍ら、県協会の理事・事務局長、会長と、協会のために尽力されてきました。役割が厳格な人柄がつくって下さいます。これまでの経験を活かし、再期2年も職務を担っていただけたらと考えています。
中村 雅代 (刈谷病院)	これまでの2年間、県協会スーパービジョン普及委員会の委員長の任をいただき、県内の会員のみなさまにむけてSVの普及啓発に努めました。しかしながら、まだ多くの方にはSVを知っていただき、活用して頂けていない、という状況では、まだまだ自分の中では多くやり残したことがあると感じています。それを実現するために今回全県選出理事として立候補させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。	内藤 千昭 (西山クリニック)	中村さんはこれまで県協会の理事を経験されており、熱意をもって幅広く協会の活動に参加されています。特にSV普及委員会では委員長を務められ、県協会のSV普及に大きく貢献されています。また日本精神保健福祉士協会の認定SVとしてSVを行い後進育成の面でも活躍されています。今後、県協会では依存症関連問題の知識の普及や支援を学び実践につなげることが出来ます。中村さんは2019年11月以前に日本協会の会員でもあり、依存症関連問題にも精通されているため、その面でも期待ができる人材だと思います。与えられた業務や役割はしっかりこなし、更にできることは前向きに挑戦されるので、とても信頼できる方だと思います。自信をもって理事に推薦させていただきます。